九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

凶器注目効果と有効視野

原田, 佑規

https://doi.org/10.15017/1785347

出版情報：九州大学, 2016, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

（様式３）

氏　　名　：原田佑規

論 文 名　：凶器注目効果と有効視野

区　　分　：甲

論　文　内　容　の　要　旨

凶器注目効果は，武装した犯人の目撃者が凶器に注意を払い，犯人の人相や衣服等の情報を正確に思い出せなくなる現象である。凶器注目効果は，凶器の存在が有効視野を狭めることによって生じるという仮説が近年提唱されている（有効視野縮小仮説）。本論文では，有効視野縮小仮説を 4 つの実験を通して検証し，その結果に基づいて，凶器注目効果を説明するための新たなモデルを提唱した。まず，第 1 章では，凶器注目効果と有効視野に関する先行研究を概観し，論点を整理した。次に，第 2 章では，凶器の存在が有効視野を狭めるのか否かを実験的に検証した。そして第 3 章では，凶器の存在と有効視野の縮小の間にある媒介要因を明らかにするために，アイテムの脅威性と文脈不一致性が有効視野に及ぼす影響を検討した。最後に，第 4 章では，これまでの結果を統合し，凶器注目効果を説明するための新たなモデルとして中心・周辺視野モデルを提唱した。